《開幕》塩田千春展：魂がふるえる

2019年6月20日(木)ー10月27日(日)　森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

塩田千春の全貌を明らかにする、過去最大で最も網羅的な個展

森美術館は、2019年6月20日(木)から10月27日(日)まで、「塩田千春展：魂がふるえる」を開催します。ベルリンを拠点にグローバルな活躍をする塩田千春は、記憶、不安、夢、沈黙など、かたちの無いものを表現したパフォーマンスやインスタレーションで知られています。個人的な体験を出発点にしながらも、その作品はアイデンティティ、境界、存在といった普遍的な概念を問うことで世界の幅広い人々を惹きつけてきました。なかでも黒や赤の糸を空間全体に張り巡らせたダイナミックなインスタレーションは、彼女の代表的なシリーズとなっています。

本展は、塩田千春の過去最大規模の個展です。副題の「魂がふるえる」には、言葉にならない感情によって震えている心の動きを伝えたいという作家の思いが込められています。大型インスタレーションを中心に、立体作品、パフォーマンス映像、写真、ドローイング、舞台美術の関連資料などを加え、25年にわたる活動を網羅的に体験できる初めての機会になります。「不在のなかの存在」を一貫して追究してきた塩田の集大成となる本展を通して、生きることの意味や人生の旅路、魂の機微を実感していただけることでしょう。

《どこへ向かって》 2019年　白毛糸、ワイヤー、ロープ
展示風景：「塩田千春展：魂がふるえる」森美術館(東京)2019年
Courtesy: Galerie Templon, Paris/Brussels
撮影：木奥恵三

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局(共同ピーアール内)：津原、田ケ谷、伊藤
Tel: 03-3571-5258　Fax: 03-3574-0316　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158　東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

開催概要

展覧会名：塩田千春展：魂がふるえる
主催：森美術館
協賛：株式会社大林組、株式会社 資生堂、thyssenkrupp Elevator、
トヨタ自動車株式会社、サムソナイト・ジャパン株式会社、
株式会社 トゥミ ジャパン、TRUNK(HOTEL)
協力：シャンパーニュ ポメリー　**制作協力**：Alcantara S.p.A.
企画：片岡真実（森美術館副館長兼チーフ・キュレーター）
会期：2019年6月20日（木）—10月27日（日）
会場：森美術館（東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階）
開館時間：10:00-22:00（火曜日のみ17:00まで）
＊入館は閉館時間の30分前まで　＊会期中無休　＊ただし、10/22（火）は22:00まで
入館料：一般1,800円、学生（高校・大学生）1,200円、子供（4歳—中学生）600円、シニア（65歳以上）1,500円
＊表示料金に消費税込　＊本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可（スカイデッキを除く）
＊スカイデッキへは別途料金がかかります
一般のお問い合わせ：Tel：03-5777-8600（ハローダイヤル）　森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

塩田千春 略歴

1972年大阪生まれ、ベルリン在住。2008年、芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。南オーストラリア美術館（2018年）、ヨークシャー彫刻公園（2018年）、スミソニアン博物館アーサー・M・サックラー・ギャラリー（2014年）、高知県立美術館（2013年）、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（2012年）、国立国際美術館（2008年）を含む世界各地での個展のほか、シドニー・ビエンナーレ（2016年）、キエフ国際現代美術ビエンナーレ（2012年）、横浜トリエンナーレ（2001年）など国際展参加も多数。2015年には第56回ベネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館代表。

作家メッセージ

今まで、展覧会が好きでそれだけが生きがいで、作品を作ってきました。どうにもならない心の葛藤や言葉では伝えることができない感情、説明のつかない私の存在、そのような心が形になったのが私の作品です。一昨年、12年前の癌が再発しましたが、死と寄り沿いながらの辛い治療も、良い作品を作るための試練なのかもしれないと考えました。この展覧会では、過去25年分の作品を発表します。裸になった私の魂との対話を観てください。

塩田千春

撮影：Sunhi Mang

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：津原、田ケ谷、伊藤
Tel: 03-3571-5258　Fax: 03-3574-0316　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158　東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

本展の特徴

塩田千春の過去最大、最も網羅的な個展

世界各地で精力的に作品を発表している塩田千春は、美術館、国際展、ギャラリーなどで、これまでに約300本の展覧会に参加しており、近年では年間20本前後の展覧会に参加するなど、国際的にも高い評価を得ています。日本では2001年の第1回横浜トリエンナーレに出展した《皮膚からの記憶》にて注目を集め、2008年には国立国際美術館（大阪）で「精神の呼吸」、2012年に丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）で「私たちの行方」、2013年に高知県立美術館で「ありがとうの手紙」など数々の個展を開催。2015年には第56回ベネチア・ビエンナーレ国際美術展（イタリア）の日本館代表として《掌の鍵》を展示しました。

本展は、1990年代の初期作品やパフォーマンスの記録から、代表的なインスタレーション、最新作までを網羅的に紹介する、過去最大規模の個展となります。

大規模な没入型（イマーシブ）インスタレーション

塩田千春の25年にわたる実践のなかで、彼女の作品を最も特徴づけるのは、黒や赤の糸を空間全体に張り巡らせるダイナミックな没入型のインスタレーションです。観客はその空間の中を歩きながら、目に見えない繋がりや、記憶、不安、夢、沈黙など、かたちの無いものを体感的、視覚的に意識させられます。糸の色について、塩田は、黒は夜空とも宇宙とも捉えることができ、赤は血液、あるいは「赤い糸」といった、人と人の繋がりと考えることもできると語っています。

本展では、移動や旅を連想させる舟やトランク、沈黙を示唆する焼けたピアノなどを用いた大型インスタレーションを展示します。

「不在のなかの存在」、魂や生きる意味を考える新作

「不在のなかの存在」をテーマに作品を制作してきた塩田千春は、記憶や夢のなかだけに存在する、物理的には存在しないものの気配やエネルギーなどにかたちを与えてきました。塩田は自身の身体と作品を分かちがたい一体のものとして捉えていますが、初期のパフォーマンス以降、自身が演じた限られた映像作品を除けば、身体が作品に現れて来なかったのは、そこに「不在のなかの存在」を意識させるためでもあるでしょう。

しかし、一昨年に癌の再発を告げられ、病院の治療プロセスに機械的に従う時間のなか、「魂はどこにあるのか」という問いが浮かんだといいます。その過程で、身体がばらばらになるような感覚に襲われた塩田は、壊れた人形のパーツばかりを集め、再び自身の手足を鋳造した作品を作りはじめました。本展のための新作インスタレーションでは、身体の断片が繋げられ、観る者に魂や生きる意味を問いかけます。

初期作品からの発展と一貫性を辿るアーカイブ展示

塩田千春は京都精華大学では絵画を専攻しましたが、1993年から1994年のオーストラリア国立大学留学中にはすでに、《一本の線》という並行線のみの大規模なドローイングや、空間に「絵を描くように」糸を張った作品も制作しています。また同時期には、「絵のなかに自分が入っている夢をみた」ことをきっかけに、身体に絵具を塗り、シーツを使ったパフォーマンス《絵画になること》も実施しました。その後ドイツに留学した塩田は、本格的に身体を使ったパフォーマンスを始め、以降ベルリンを拠点にさまざまな試みを続けてきました。

本展のアーカイブ展示では、初期のドローイングから、インスタレーションやパフォーマンスの記録を通して、彼女の実践の発展とそこに通底する一貫性を辿ります。

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：津原、田ケ谷、伊藤
Tel: 03-3571-5258　Fax: 03-3574-0316　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158　東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

舞台美術の仕事に関する資料展示

塩田千春は、2003年にウヤズドフスキ城現代美術センター（ポーランド、ワルシャワ）で発表された「オール・ア・ローン」（可世木祐子演出）以降、ダンスやオペラなど数々の舞台美術を手掛けてきました。ドイツでは、キール歌劇場オペラハウスで上演された「トリスタンとイゾルデ」（2014年）、「ジークフリート」（2017年）、「神々の黄昏」（2018年）などのワーグナー作品。国内では、岡田利規演出による「タトゥー」（2009年、新国立劇場）や、細川俊夫作曲、サシャ・ヴァルツ演出による、2011年初演のオペラ「松風」（日本初演2018年、新国立劇場）*などの作品があります。

塩田の空間芸術が舞台公演とどのように関係づけられ、いかに活かされてきたのか。本展では、記録映像や模型を通してその様子を再現します。

*オペラ「松風」は、モネ王立歌劇場（ベルギー、ブリュッセル）で初演されて以降、ベルリン国立歌劇場（ドイツ）、ポーランド国立歌劇場（ワルシャワ）、ルクセンブルク歌劇場でも公演されました。

オペラ公演「松風」の舞台美術
モネ王立歌劇場（ブリュッセル）、2011年
撮影：Sunhi Mang

主な展示作品

《どこへ向かって》

舟は塩田の作品に頻繁に使われるモチーフのひとつです。大海に浮かぶ小舟のように、それは先の見えない未来や人生などを連想させます。高さ11メートルの天井から吊られた65艘の舟は、美術館の入口で観客を出迎え、展覧会という旅へと誘います。

《どこへ向かって》 2019年　白毛糸、ワイヤー、ロープ
展示風景：「塩田千春展：魂がふるえる」森美術館（東京）2019年
Courtesy: Galerie Templon, Paris/Brussels
撮影：木奥恵三

《手の中に》

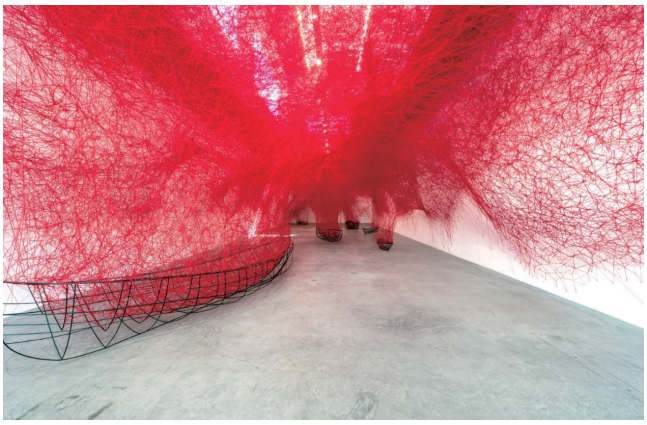
今にも壊れそうな儚い造形物が、子どもの両掌のなかで守られています。 塩田はギャラリーを覆いつくす糸のインスタレーションを通して、空間に潜む目に見えない存在を視覚化してきましたが、掌にそっと収まるこの抽象的なモチーフは、彼女の身体に内在する生命、あるいは魂を表現しているようでもあり、展覧会の副題である「ふるえる魂」も連想させます。

《手の中に》
2017年
ブロンズ、真鍮、鍵、針金、ラッカー
38×31×42 cm
Courtesy: Kenji Taki Gallery, Nagoya/Tokyo
撮影：怡土鉄夫

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：津原、田ケ谷、伊藤
Tel: 03-3571-5258　Fax: 03-3574-0316　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158　東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

《不確かな旅》

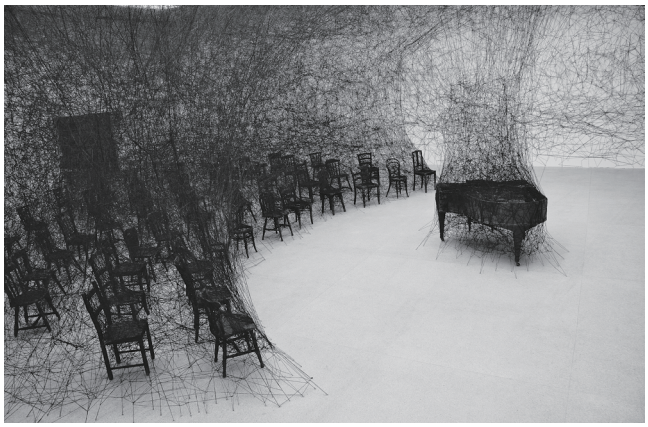
会場に入って最初のインスタレーションは、真っ赤な糸で覆われた空間に、フレームだけの舟が配された作品です。2015年のベネチア・ビエンナーレ日本館での展示では、古いベネチアの伝統的な舟の上部に、夥しい数の鍵が吊られていましたが、《不確かな旅》では舟はより抽象化され、赤い糸で埋め尽くされた空間は、不確かな旅の先にある多くの出会いを示唆しているかのようです。



《不確かな旅》 2016年　鉄枠、赤毛糸
展示風景：「不確かな旅」ブレイン｜サザン（ベルリン）2016年
撮影：Christian Glaeser

《静けさの中で》

塩田が幼少期に、隣家が夜中に火事で燃えた記憶から制作されたインスタレーション。燃えたグランドピアノと観客用の椅子が、黒い糸で空間ごと埋め尽くされる作品です。音の出ないピアノは沈黙を象徴しながらも、視覚的な音楽を奏でます。



《静けさの中で》 2008年　焼けたピアノ、焼けた椅子、黒毛糸＊
展示風景：「存在様態」パスクアートセンター（スイス、ビール／ビエンヌ）2008年
撮影：Sunhi Mang
＊本展ではAlcantaraの黒糸を使用

《時空の反射》

身体を覆う皮膚のように、ドレスは自身の内部と外部の境界を象徴します。そのドレスが黒い糸で埋め尽くされた空間に浮かぶことで、不在の存在を感じさせます。また、鉄枠に囲まれた空間を半分に仕切る鏡の両側にドレスが吊られていることで、虚像として鏡に映るドレスと反対側の空間に実際に在るドレスが、観る者の意識のなかで混在します。

《時空の反射》 2018年　白いドレス、鏡、鉄枠、Alcantaraの黒糸　コミッション：Alcantara S.p.A.
展示風景：「時間を巡る9つの旅」パラッツォ・レアーレ（ミラノ）2018年
撮影：Sunhi Mang

《内と外》

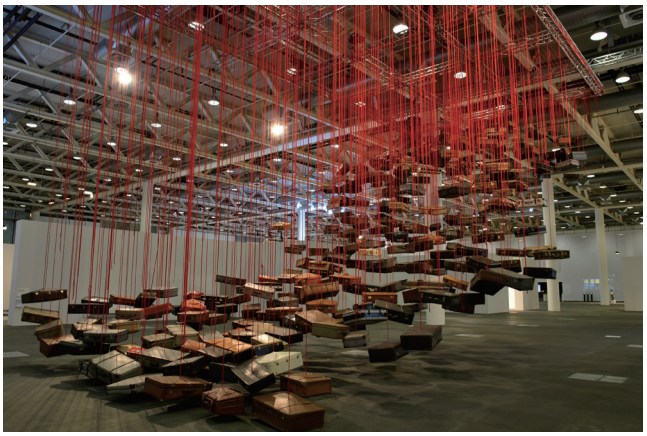
1996年にドイツに移住し、現在はベルリンを拠点とする塩田は、ベルリンの壁の崩壊から15年後の2004年頃より、窓を使った作品を制作し始めました。当時ベルリンでは再開発が進み、多くの建物が取り壊されてゆくなか、塩田は廃棄された窓枠を集めて歩きました。窓はプライベートな空間の内と外の境界として存在しますが、東西ドイツを分断した壁も連想させます。《内と外》は2009年から制作され、いくつかのバージョンがありますが、本展では約230枚の窓枠を用いた作品を展示します。

《内と外》 2009年　古い木製の窓、椅子
展示風景：ホフマン・コレクション（ベルリン）2009年
撮影：Sunhi Mang

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：津原、田ケ谷、伊藤
Tel: 03-3571-5258　Fax: 03-3574-0316　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158　東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

《集積―目的地を求めて》

約430個のスーツケースが振動し続ける本作は、塩田がベルリンの蚤の市で見つけたスーツケースの中に、古い新聞を発見したことをきっかけに制作されています。あらゆる物はそれぞれの記憶を内包していますが、ここではスーツケースが見知らぬ人の記憶、移動や移住、あるいは難民として定住先を求める旅など、人生の旅路そのものを示唆しているようでもあります。



《集積―目的地を求めて》 2016年　スーツケース、モーター、赤ロープ
展示風景：「アート・アンリミテッド」アートバーゼル（スイス）2016年
Courtesy: Galerie Templon, Paris/Brussels　撮影：Atelier Chiharu Shiota

《行くべき場所、あるべきもの》

どこからか集められた私的な写真、新聞の切り抜き、建物の瓦礫など、失われた過去を示唆するオブジェが古いスーツケースに詰められています。 誰かの形見や記念品などの記憶を、約束の無い未来に向かって運ぶスーツケースは、不確かな世界に生きながらも、存在の確かさを求める人々の思いを体現しているようです。

《行くべき場所、あるべきもの―写真》
2010年
スーツケース、写真、糸、他
40×50×43 cm
Courtesy: Kenji Taki Gallery, Nagoya/Tokyo

《外在化された身体》※新作

2017年の癌再発と闘病以降、塩田の作品に身体のパーツが使われるようになります。その背景には、治療のプロセスでベルトコンベアーに乗せられるように、身体の部位が摘出され、抗がん剤治療を受けるなか、魂が置き去りにされていると感じた経験があります。不在のなかに生命の営みの存在を感じてきた塩田にとって、身体を作品に使うことは、その不在を想像することなのかもしれません。

《外在化された身体》（部分）
スタジオにて
2019年
撮影：Sunhi Mang
※参考図版

最新のプレス画像は、下記サイトより申請、ダウンロードいただけます。
http://bit.ly/2TGN969

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：津原、田ケ谷、伊藤
Tel: 03-3571-5258　Fax: 03-3574-0316　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158　東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

展覧会関連プログラム

アーティストトーク ※日英同時通訳、手話同時通訳付

本展展示作品を含め、これまでの活動についてアーティスト自身が語ります。

日時：2019年6月22日（土）14:00-15:30（受付開始13:30）
出演：塩田千春
会場：森美術館オーディトリアム　**定員**：80名（要予約）　**料金**：無料（ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です）
お申し込み：受付は終了しました。

トークセッション「記憶について」 ※日英同時通訳付

ドイツを拠点に活動するアーティストの塩田千春と、フランス在住の建築家、田根剛氏が、他国に身を置いてグローバルに活動するなかで日々感じていることや、自身の制作活動を通して表現する「記憶」をめぐる思いなどをテーマに語り合います。

日時：2019年8月28日（水）19:00-20:30（受付開始18:30）
出演：塩田千春、田根 剛（建築家）　**モデレーター**：片岡真実（森美術館副館長兼チーフ・キュレーター）
会場：アカデミーヒルズ（六本木ヒルズ森タワー49階）　**定員**：150名
料金：1,800円
お申し込み：森美術館ウェブサイト　www.mori.art.museum

トークセッション「塩田千春の世界から〜多文化、越境するアイデンティティ」 ※日本語のみ

国内外において《マクドナルドラジオ大学》などの社会実験的プロジェクトを手がけるアーティストの高山明氏、ニューヨーク生まれ広島育ちでジャーナリストからDJまでさまざまな分野で活躍する、異色の経歴を持つモーリー・ロバートソン氏をゲストに迎え、日本の多文化化の問題やD&I（ダイバーシティ&インクルージョン）について考えます。自己存在を探究し続ける塩田千春の作品世界にも繋がる視点を共有しながら語り合います。

日時：2019年7月20日（土）14:00-16:00（受付開始13:30）
出演：高山 明（アーティスト、Port B）、モーリー・ロバートソン（ジャーナリスト、DJ）
モデレーター：片岡真実
会場：森美術館オーディトリアム　**定員**：80名
料金：無料（ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です）
お申し込み：森美術館ウェブサイト　www.mori.art.museum

パフォーミング・アーツ・プログラム「美術と演劇：くちないし」

「塩田千春展」を舞台に平原慎太郎氏率いるOrganWorksのダンサー達が四つの物語を繋げて表現していきます。塩田千春の作品が持つ詩的な記憶の断片が目の前に現れる美術とダンスが融合した特別公演です。

日時：第1回　2019年8月27日（火）18:30開演（受付開始18:00）
　　第2回　2019年9月　3日（火）18:30開演（受付開始18:00）
出演：平原慎太郎 ほか
会場：森美術館展示室内　**定員**：各70名　**料金**：5,000円
お申し込み：森美術館ウェブサイト　www.mori.art.museum

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：津原、田ケ谷、伊藤
Tel: 03-3571-5258　Fax: 03-3574-0316　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158　東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

キュレーターによるギャラリートーク ※日本語のみ

本展担当キュレーターが、展示室内でツアー形式のトークを行います。

日時：2019年6月28日（金）19:00-20:00
ガイド：片岡真実
会場：森美術館展示室内　**定員**：30名　**料金**：無料（ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です）
お申し込み：不要（当日先着順、展覧会会場入口にお集まりください）

ギャラリートーク ※日本語、ドイツ語、英語

展示室内でツアー形式のトークを行います。

第1回　日本語によるギャラリートーク
日時：2019年7月26日（金）19:00-20:00
ガイド：白木栄世（森美術館アソシエイト・ラーニング・キュレーター）
会場：森美術館展示室内　**定員**：15名　**料金**：無料（ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です）
お申し込み：不要（当日先着順、展覧会会場入口にお集まりください）

第2回　ドイツ語によるギャラリートーク
日時：2019年9月20日（金）19:00-20:00
ゲスト・ガイド：ウルリケ・クラウトハイム（ゲーテ・インスティトゥート東京　文化部企画コーディネーター）
会場：森美術館展示室内　**定員**：15名　**料金**：無料（ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です）
協力：ゲーテ・インスティトゥート東京
お申し込み：不要（当日先着順、展覧会会場入口にお集まりください）

第3回　英語によるギャラリートーク
日時：2019年10月23日（水）19:00-20:00
ガイド：矢作 学（森美術館アシスタント・キュレーター）
会場：森美術館展示室内　**定員**：15名　**料金**：無料（ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です）
お申し込み：不要（当日先着順、展覧会会場入口にお集まりください）

おやこでアート ファミリーアワー

0歳から6歳のお子さまと一緒に、森美術館へ出かけませんか?開館前の美術館を貸し切り、小さなお子様と安心してご鑑賞いただけます。現在妊娠中のプレママもぜひご参加ください。ご家族との週末の楽しみに、子どもたちとの交流に、子育ての情報交換に、「塩田千春展」を自由にお楽しみください。

日時：第1回：2019年7月20日（土）9:15-10:30
　　第2回：2019年10月5日（土）9:15-10:30
会場：森美術館展示室内　**対象**：未就学児（0〜6歳）とそのご家族、現在妊娠中の方とそのご家族
定員：80組（要予約、先着順）　**料金**：無料（ただし、当日有効の森美術館の本展覧会チケットが必要です）
お申し込み：森美術館ウェブサイト　www.mori.art.museum
※ベビーカーや抱っこひもで赤ちゃんと一緒に自由にご鑑賞ください
※9:35より、美術館スタッフが展示室内でいくつかの作品をご紹介します。参加をご希望の方は展示室入口にお集まりください。
（※日本語のみ、当日先着20組限定）
※10:00より一般のお客様も入館します。ご了承ください。

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：津原、田ケ谷、伊藤
Tel: 03-3571-5258　Fax: 03-3574-0316　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158　東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

▌まちと美術館のプログラム 森美術館×ヒルズ街育プロジェクト

「キッズアート探検」 ※日本語のみ

「文化都心」をコンセプトとする六本木ヒルズで、「街づくりにはどうして文化が欠かせないのか」を楽しみながら学び、現代アートを体験するプログラム。森美術館では開催中の「塩田千春展：魂がふるえる」をスタッフによる解説を聞きながら鑑賞します。

日時：第1回 2019年7月31日（水）10:30-12:00
第2回 2019年7月31日（水）14:30-16:00
第3回 2019年8月 1日（木）10:30-12:00
第4回 2019年8月 1日（木）14:30-16:00
会場：六本木ヒルズ　**対象**：小学3年生〜6年生および保護者　**定員**：各回15組30名　**料金**：無料（要予約、抽選）
お申し込み：森美術館ウェブサイト　www.mori.art.museum

▌まちと美術館のプログラム 森美術館×MIRAI SUMMER CAMP

「塩田千春展で“こども哲学”しよう」 ※日本語のみ

展覧会をツアーで巡り、塩田千春の作品を体感した後、「魂って何?」「魂ってどこ?」といった問いについて参加者みんなで考えていきます。作品から湧き上がる「どうして?」を私たちの身近なことに繋げて言葉にしていくプログラムです。対話の後はVIVITA（株）が独自に開発したプログラミングツールを使いながら、生きものを表現する制作を行います。

日時：2019年8月11日（日）10:00-17:30
会場：六本木ヒルズ
対象：小学校3年生〜6年生　**定員**：30名　**料金**：1,000円（材料費）
協力：NPO法人 こども哲学・おとな哲学 アーダコーダ、VIVITA株式会社
お申し込み：森美術館ウェブサイト　www.mori.art.museum

▌耳でみるアート ※日本語のみ

視覚に障がいがある方を対象とした、スタッフとの対話を通して作品を楽しむツアーです。
本プログラムは見える、見えないにかかわらず、どなたでもご参加いただけます。

日時：2019年10月5日（土）10:30-12:30
会場：森美術館展示室内　**対象**：一般　**定員**：10名（要予約）
料金：無料（ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です。なお、障がい者手帳をご持参の方と介助者1名はチケットが不要[入館無料]です。）
お申し込み：森美術館ウェブサイト　www.mori.art.museum／Tel: 03-6406-6101（月〜金 11:00-17:00）

▌手話ツアー ※日本語のみ

手話と言葉で展覧会を楽しむツアーです。手話をお使いにならない方も気軽にご参加ください。

日時：2019年 9月21日（土）14:00-15:00
2019年10月 5日（土）14:00-15:00
会場：森美術館展示室内　**対象**：一般　**定員**：10名（要予約）
料金：無料（ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です。なお、障がい者手帳をご持参の方と介助者1名はチケットが不要[入館無料]です。）
お申し込み：森美術館ウェブサイト　www.mori.art.museum／Fax: 03-6406-9351

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：津原、田ケ谷、伊藤
Tel: 03-3571-5258　Fax: 03-3574-0316　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

学校と美術館のためのプログラム ※日本語のみ

展覧会の紹介とともに、現代アートと子どもたちの学びについて、先生と美術館スタッフがディスカッションします。図工や美術のみならず、美術館の活用にご関心を寄せていただいている他教科の先生もぜひご参加ください。

日時：2019年6月28日（金）19:00-21:00
スケジュール
19:00-20:00「キュレーターによるギャラリートーク」に参加
20:00-21:00 ディスカッション
会場：森美術館展示室内
対象：保育園、幼稚園、小・中学校、高校、大学、専門学校の先生　**定員**：10名（要予約）　**料金**：無料
お申し込み：森美術館ウェブサイト　www.mori.art.museum

とびだす学校ツアー ※日本語のみ

作品鑑賞を子どもたちや学生たちの学びに取り入れてみませんか?授業などの一環として展覧会をご覧いただくツアーです。希望日の4週間前までにお問い合わせください。事前にご相談のうえ、日程や内容を決定します。

対象：保育園、幼稚園、小・中学校・高校、大学、専門学校
人数：1回50名まで（ギャラリートークの場合）※それ以上の人数はガイダンスやレクチャー形式などでご相談に応じます。
料金：［幼稚園、保育園、小学校、中学校］プログラム費無料、入館料無料
［高等学校］プログラム費無料、入館料1人500円
［大学、専門学校］プログラム費無料、入館料1人1,000円
※引率者はいずれも無料
お申し込み：電話、FAXまたはメールにて下記項目をお知らせください。
・学校名、学年、人数、ご連絡先
・ご希望の来館日時（複数の候補日をお知らせください）

注意事項：
※会場混雑やスケジュール等の事情により、ご希望に沿えない場合もあります。ご了承ください。
※館内には昼食をとる場所はありません。

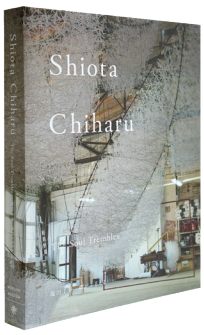
プログラムに関する一般のお問い合わせ：森美術館 ラーニング担当
Tel:03-6406-6101（月～金：11:00-17:00）　Fax: 03-6406-9351　E-mail: mam-learning@mori.co.jp

※出演者は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。
※最新情報、お申し込みは、森美術館ウェブサイトへ：www.mori.art.museum

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：津原、田ケ谷、伊藤
Tel: 03-3571-5258　Fax: 03-3574-0316　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158　東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

関連情報

▌展覧会カタログ



執筆者：
片岡真実（森美術館副館長兼チーフキュレーター）
アンドレア・ヤーン（ザールブリュッケン市立ギャラリーディレクター）
ダニエル・カラセック（キール歌劇場芸術総監督）

サイズ：A4変型（28.2 x 21 cm）　**ページ数**：未定　**言語**：日英バイリンガル　**価格**：未定
制作：株式会社美術出版社／森美術館　**発行**：株式会社美術出版社　**発売日**：2019年8月上旬予定

お問い合わせ：森美術館ミュージアムショップ
Tel：03-6406-6118　営業時間：10:00-22:00（祝日を除く火曜日は17:00まで）　※美術館の開館時間に準ずる

▌GINZA SIXでも塩田千春の作品を展示

GINZA SIXの吹き抜け空間に期間限定で展示されている、塩田千春によるインスタレーション《6つの船》。戦後多くの困難を乗り越えて復興を遂げてきた銀座の「記憶の海」を、6隻の船が出航し前進する様子を表現した新作です。6隻の船は、空間全体に張り巡らせた白い糸によって吊り下げられ、異なる高さや向きで配置されています。各フロアから見え隠れする船は、ふと、異次元を訪れるかのような想像の旅に誘います。

展示期間：2019年2月27日（水）〜10月27日（日）予定
展示場所：GINZA SIX　中央吹き抜け（東京都中央区銀座 6-10-1）
詳細：https://ginza6.tokyo/art

《6つの船》
2019年
鉄枠、フェルト、ロープ
展示風景：GINZA SIX（東京）2019年
撮影：加藤 健

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：津原、田ケ谷、伊藤
Tel: 03-3571-5258　Fax: 03-3574-0316　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158　東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル